

特集
南海トラフ
巨大地震に 備える

矢作水源フォレストランド通信

矢作ダム水源地域総合案内を作成しました

今号の表紙



茶臼山高原「芝桜」

2007年から5ヶ年計画で植栽を行った茶臼山高原「芝桜の丘」。標高1,358m、愛知県で一番高い場所にある約22,000m²の花畑では、約40万株の可憐な芝桜を見ることができます。

矢作水源フォレストランド通信

矢作水源フォレストランドとは、愛知、岐阜、長野の3県・4自治体にまたがる矢作ダム水源地域の共通名称。

平成18年3月に矢作ダム水源地域ビジョンを策定し、この地域の自立的、持続的な地域活性化活動を推進しています。

このコーナーでは、矢作水源フォレストランドが行う活動の最新情報をお知らせします。

矢作ダム水源地域総合案内を作成しました

平成24年3月、矢作水源フォレストランド協議会では、この地域の特産や観光名所などをイラストマップなどで分かりやすく紹介した、『矢作水源地域総合案内』のチラシとパネルを作成しました。

『旭高原元気村』『奥矢作レクリエーションセンター』『いなぶ観光協会』『道の駅上矢作ラ・フォーレ福寿の里』『ネバーランド』『ひまわりの湯・道の駅信州平谷』の6箇所で配布、展示していますので、お寄りの際は、ぜひご活用下さい。

その他、矢作ダム右岸側（岐阜県恵那市側）の看板もリニューアルいたしましたので、合わせてご活用下さい。



矢作ダム右岸側に設置した新しい看板

矢作水源地域の観光案内所

いなぶ観光協会（道の駅「どんぐりの里いなぶ」内）
TEL.0565-83-3200

旭観光協会（JAあいち豊田2F）※平日のみの対応
TEL.0565-68-3653

根羽村観光協会（根羽村商工内）
TEL.0265-49-2103

平谷村観光協会（平谷村役場内）
TEL.0265-48-2211

恵那市串原振興事務所（福祉センター内）
TEL.0573-52-2111

恵那市上矢作振興事務所（上矢作コミュニティセンター内）
TEL.0573-47-2111



地域の特産や観光名所などがイラストで楽しく描かれた『矢作水源地域総合案内』

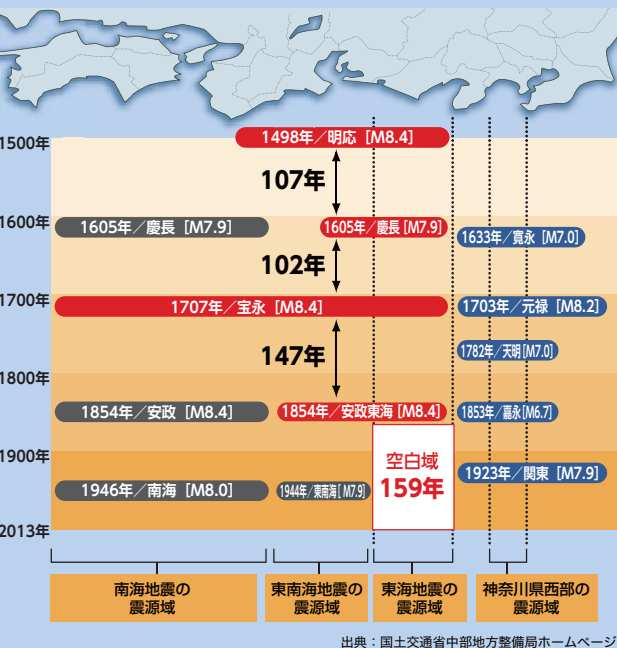


国土交通省中部地方整備局
矢作ダム管理所

〒444-2841 愛知県豊田市閑羅瀬町東畑67
TEL.0565(68)2321 FAX.0565(68)2328
（ホームページアドレス）<http://www.cbr.mlit.go.jp/yahagi>

中部では100～150年周期で 巨大時地震が発生しています

駿河湾から四国沖にいたる太平洋岸では、マグニチュード8クラスの巨大地震が、過去に約100～150年周期で繰り返し発生しています。南海トラフを震源とする3つの地震、東海地震・東南海地震・南海地震です。このうち東海地方では、1854年の安政東海地震から160年近くが経過し、巨大地震の空白域となっています。



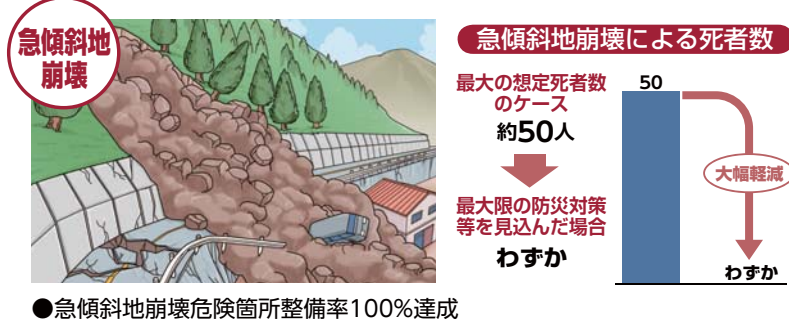
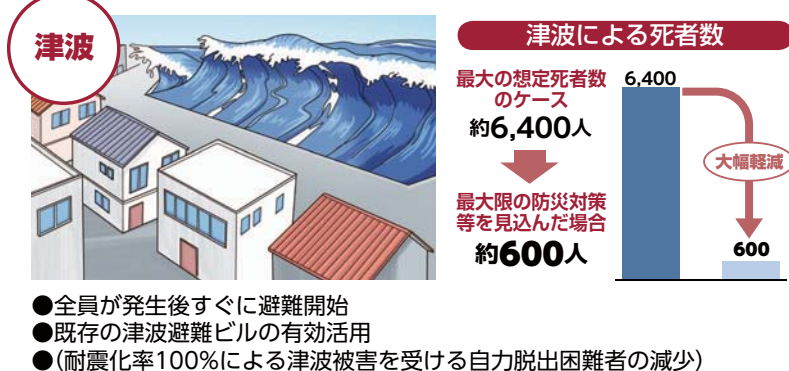
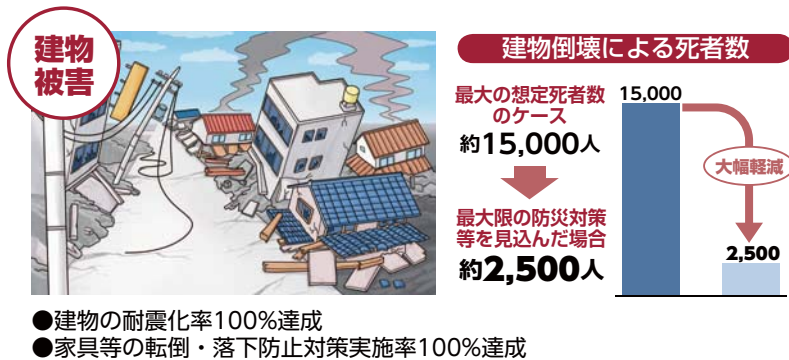
了仙寺本堂に今も残る 159年前の安政東海地震の傷跡



嘉永7年(1854)に日米和親条約付録下田条約が締結された場として知られる静岡県下田市「了仙寺」には、安政東海地震による津波で流れ込んだ船がぶつかってできた傷痕が、本堂のはりに今もくっきりと残っています。この地震による死者は2千～3千人、津波は房総から土佐までの沿岸を襲い、特に下田・遠州灘・伊勢志摩・熊野灘沿岸で大きな津波被害が発生したと考えられています。

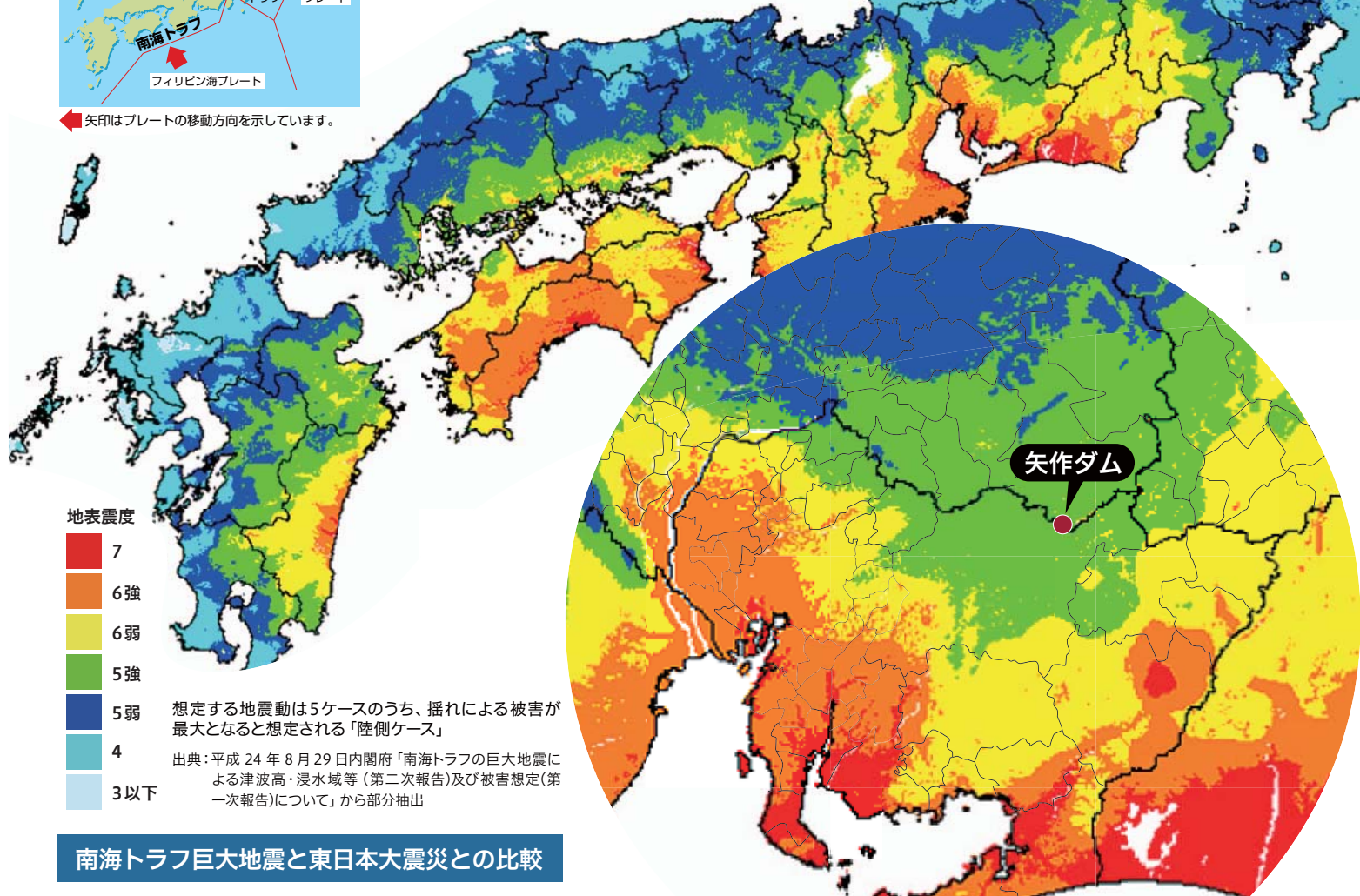


最大限の防災対策で 被害は大幅に軽減

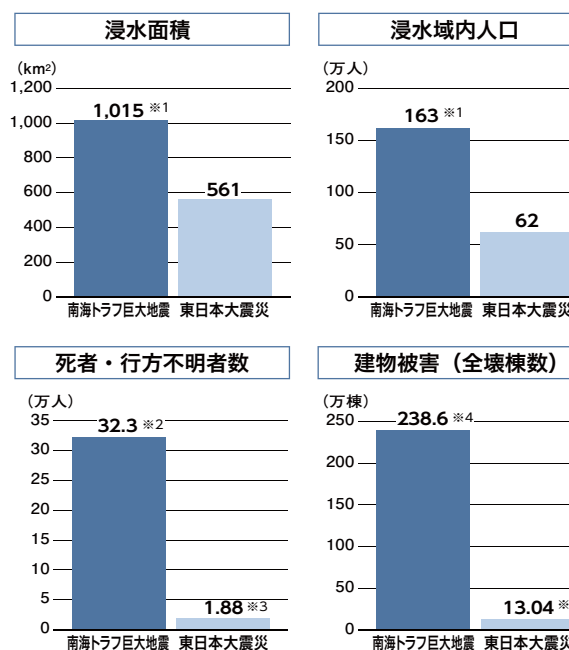


「東海から九州沖を震源域とする「南海トラフ巨大地震」について、中央防災会議の作業部会と内閣府の検討会は、最悪のケースで死者32万3,000人、倒壊・焼失建物が238万6,000棟に上り、1,015平方キロが浸水するとした被害想定を発表しています。内閣府は「発生確率は極めて低く、対策を取れば被害を減らせる」として、防災・減災の取組み強化を促しています。

日本列島は4枚のプレート（地殻）の境界に位置しています。このうち、フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に潜り込む境界にあたる水深4,000m級の巨大な海底の溝が南海トラフです。



南海トラフ巨大地震と東日本大震災との比較



※1：堤防・水門が地震動に対して正常に機能する場合の想定浸水域
※2：地震動（陸側）、津波ケース（ケース①「駿河湾～紀伊半島沖」に大すべり域を設定）、時間帯（冬・深夜）、風速（8m/s）の場合の被害
※3：平成24年6月26日緊急災害対策本部発表
※4：地震動（陸側）、津波ケース（ケース⑤「四国沖～九州沖」に大すべり域を設定）、時間帯（冬・夕方）、風速（8m/s）の場合の被害
出典：平成24年8月29日中央防災会議「南海トラフ巨大地震の被害想定について（第一次報告）」から部分抽出

南海トラフ巨大地震に 備える

2万人を超す犠牲者と財産のすべてを失った多くの被災者、そして、仮設住宅に暮らす人々を含め、約32万人ものいまだに避難する人々を出した東日本大震災の発生から2年がたちました。発災と同時に国土交通省中部地方整備局も全力で被災地の救援活動を展開してまいりました。しかし今、この大震災の記憶の風化が危惧されています。東北地方と同様、南海トラフ巨大地震の危険性に直面している中部圏は、特にこの教訓を生かし防災・減災の取組みを強化する必要があります。